

「県南地域感染症情報」に関する御意見、御質問等はFAXまたはメールでお願いします。

県南保健所生活衛生部医療薬事課

FAX0248-23-1252 メールアドレス kansen_kennan@pref.fukushima.lg.jp

令和元年台風第19号の被災地域における

感染症予防について

今回の被害に際して、

感染症の発生及びまん延が懸念される場合には、別紙のリーフレットを参考に地域の実情に応じ、対応をお願いします。

また、厚生労働省のホームページに「令和元年台風第19号について」に感染症対策等について、まとめて掲載しておりますので、参考にしてください。



(参考資料)

参考1

大規模自然災害の被災地における感染制御マネージメントの手引き
(日本環境感染学会)

参考2

東日本大震災一自身・津波後に問題となる感染症 (日本感染症学会)

参考3

「一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法」のガイドランス」暫定版 (日本感染症学会)

厚生労働省ホームページ
被災した家屋での感染症対策

1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性の皆様

注意: 風しんの感染を拡大させる可能性があります

風しんから、あなた自身と周りの人をまもるために風しんに対する抵抗力を確認・獲得しましょう。1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性の方は、風しんの抗体検査及び予防接種が原則無料となります。

問い合わせ先: お住まいの市町村

浸水した家屋の感染症対策

浸水した家屋が浸水した場合は、細菌やカビが繁殖しやすくなり、感染症にかかるおそれがあるため、清掃が大切です！！

清掃の時の注意事項

● ドアと窓をあけて、しっかり換気

数日して自宅に戻るときは、屋内にカビが発生していることがあります

● 汚泥は取り除き、しっかり乾燥

消毒薬は、汚れを取りのぞいた上で使用しましょう

● 清掃中のケガ予防に手袋を着用

● ほこりを吸わないようにマスクを着用

● 清掃が終わったらしっかり手洗い

主な消毒方法について

薬液の濃度や用法など消毒薬は、薄めて（希釈して）使用するものがあります。使用上の注意事項を確認してから使用しましょう。

- 汚染の程度がひどい場合、長時間浸水していた場合は、できるだけ次亜塩素酸ナトリウムを使用する。
- 対象物が、色あせ、腐食などにより次亜塩素酸ナトリウムが使用できない場合は、アルコール、塩化ベンザルコニウムを使用する。

消毒薬	対象と使い方	
	食器類・流し台・浴槽	家具類・床
次亜塩素酸ナトリウム (家庭用塩素系漂白剤でも可)	0.02%に希釈する ①食器用洗剤と水で洗う。 ②希釈した消毒薬に5分間漬けるか、消毒薬を含ませた布で拭き、その後、水洗い・水拭きする。 ③よく乾燥させる。	0.1%に希釈する ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。 ③金属面や木面など色あせが気になる場所は、水で2度拭きする。
消毒用アルコール	希釈せず、原液のまま使用する ①洗剤と水で洗う。 ②アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない	希釈せず、原液のまま使用する ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない
10%塩化ベンザルコニウム (逆性石けん)	0.1%に希釈する ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。	0.1%に希釈する ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。

参考：日本環境感染学会 一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法

浸水した家屋を清掃される方へ

感染症予防のためには

清掃と乾燥が 最も重要です

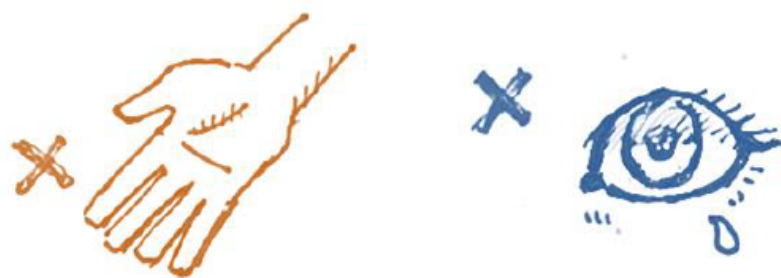
屋外※では消毒は原則不要です

※特に床下や庭など

消石灰の取扱いに注意

肌や目を痛めるため、
使用には十分な注意が必要です

消石灰は、アルカリ性であり、肌や目に触れると炎症を起こします。
特に、まいた消石灰が飛散して目に入ると、大変危険です。
目に入った場合、失明する恐れがあるため、すぐに大量の水で洗い流し、医療機関を受診しましょう。



消石灰を素手で触ったり、目に入れないよう注意



清掃作業をされる方へ

清掃作業時に 注意してください

①傷口からの感染



- 予防策**
- ・ 丈夫な手袋や底の厚い靴などを着用
 - ・ 長袖など肌の見えない服装を着用

ケガをした場合

傷口を流水で洗浄し、消毒しましょう。
特に深い傷や汚れた傷は破傷風※になる場合があるため、医師に相談をしましょう。

※ 破傷風は傷口に破傷風菌が入り込んでおこる感染症で、医療機関で適切な治療を行わないと死亡することもある病気です。

②土ほこりへの対応

土ほこりが目に入って結膜炎なったり、口から入ってのどや肺に炎症を起こすこともありますので、目や口を保護することが重要です。

- 予防策**
- ・ ゴーグル・マスクを着用
 - ・ 作業後には手洗い

目に異物が入った場合

目を洗浄しても、充血が起きている場合などは医師に相談をしましょう。